アジア・新興国～新型肺炎の影響でタイ・バーツ相場は一変～

経済調査部　主席エコノミスト　西濱 徹(にしはま とおる)

昨年活況を呈したバーツ相場は年明け以降一変

昨年末から年明け直後にかけての国際金融市場では、米中合意に対する期待のほか、米FRB(連邦準備制度理事会)の「予防的利下げ」実施など先進国中銀による金融緩和も追い風に、『カネ余り』が長期化するとの見方を反映して世界的に株価は最高値を更新するなど活況を呈した。また、米中摩擦の激化や世界的な景気減速懸念に伴い世界的に頭打ちの様相を強めてきた製造業の企業マインドも、金融市場の活況を背景に底打ちする動きもみられた。

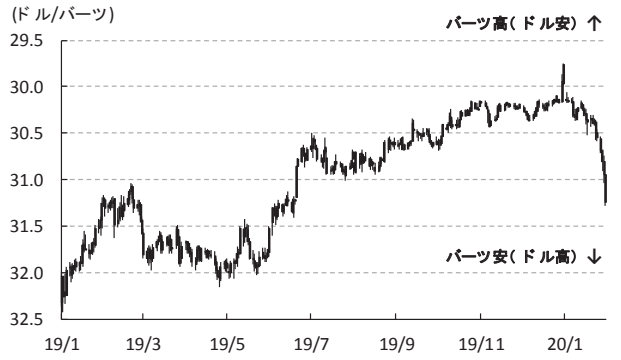
一方、タイの通貨バーツを巡っては、その輸出依存度の高さ故に、世界経済の減速に伴う景気下振れが懸念されたにも拘らず、経常黒字国であるなど対外収支構造の堅牢さを理由に『ホットマネー』が流入することで、バーツ高圧力が強まり、輸出競争力の低下を招く難しい局面が続いた。よって、タイ中銀は昨年2度の利下げを実施し、政策金利を世界金融危機直後以来の低水準とするなど金融緩和の度合いを強める姿勢を示した。しかし、バーツ高圧力に歯止めが掛からない厳しい状況が続き、昨年末にバーツの対ドル相場は一時6年半ぶりの高値を記録した。しかし、年明け以降のバーツ相場は一転して下落するなど急速に風向きが変わっている。この背景には、中国中部の湖北省武漢市で発生した新型肺炎の影響が極めて大きいと捉えられる。

中国人観光客の動向は経済、対外収支双方に影響

ここ数年、タイは中国人にとって人気の高い旅行先の上位に挙がっており、昨年の中国人旅行者によるタイでの支出額は約180億ドル、GDP比で3%強に上るなど関連産業を中心に景気の押し上げ役となってきた。さらに、その大宗は中国政府が1月末に禁止措置を発動した団体旅行であり、観光客数の激減による観光関連収入の減少、それに伴う経常黒字幅の縮小が嫌気されている模様である。なお、当局にとっては、昨年末にかけての『ホットマネー』流入によるバーツ高圧力に苛まれていたことを勘案すれば、バーツ高圧力の緩和は歓迎すべきことと捉えられる。その一方、中国人観光客の減少に伴う経常黒字の縮小は対外収支の悪化のみならず、関連収入の減少を通じて景気減速に繋がるなど難しい対応を迫られる。

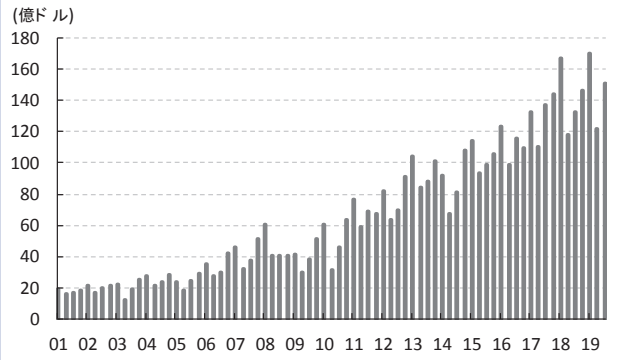
足元の政策金利は世界金融危機直後以来の低水準となるなど、すでに中銀は強力な金融緩和を通じた景気の下支えを進めている。その一方、過去に行われた経済政策などの影響により、家計部門が抱える債務残高はGDP比で8割弱とアジア新興国のなかで突出しており、一段の金融緩和を通じた景気押し上げ余地は限界に近付きつつある。新型肺炎の行方については、収拾の目途が立たず事態が長期化する可能性も懸念されるなか、バーツ相場がさらなる下落圧力に晒されることは避けられそうにない。

資料1　バーツ相場(対ドル)の推移



(出所)Refinitivより第一生命経済研究所作成

資料2　旅行収支の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成